

年頭の辞

光寿無量

新しい年の初めにあたり、京都の本願寺よりご挨拶申し上げます。

昨年は本当に大変な年でした。五十年に一度のご勝縁である親鸞聖人の大遠忌法要を四月からにぎにぎしく、お勤めできると思っていたのですが、三月の大地震によって事態はすっかり変わりました。被災者の方々の苦悩は想像を越えるものと思いますが、京都にいる私は、何をすべきか、何ができるのか、将来はどうなるのだろうかと思いを巡らす日々でした。特に、原子力発電所の事故は、被害者の困難だけでなく、支援活動の熱意を削ぐとともに、日本の将来や地球の将来を不安におとしいました。

世界各地の方々が心配してくださり、義援金などのお見舞いをしてくださいましたこと、まことに有り難うございます。

諸行無常という言葉は理解しやすいですが、その現実を受け容れることは容易ではなく、その先へ進むためには、阿弥陀如来の智慧と慈悲のはたらきが大きな力となってくださると思います。親鸞聖人の時代にも、大地震があり、気候不順から飢饉がたびたびあったと伝えられています。他力の信心、お念仏一つという教えは、親鸞聖人のご体験と相応しているに違いありません。できることをするだけでは満たされないこころの奥底の課題は南無阿弥陀佛によって往生成仏の道を歩むところに解決の可能性があります、

津波災害では、過去の経験が活かされたところ、忘れられたところ、無視されたところ、あるいは、科学技術を過信したところなどがありました。凡夫の限りない欲望をどのように抑え、限りある智慧や能力をどのように活かすかは、新しい年の課題だと受け取りました。あらゆるいのち、阿弥陀如来の光の中にあることを思いつつ、共に歩む日々を過ごしたいと思います。

2012年1月1日

浄土真宗本願寺派

門主 大谷光真